

教 科	国 語	科 目	古 典 文 学 A
履修条件	選択履修		
対象生徒	デザイン科 2 学年		
学習目標	・ 古典を通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で、伝え合う力を高める。 ・ 我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	〔授業〕 ・ 古文・漢文の文法や語彙を習得し、物語・随筆・日記・史伝・詩文・思想などの読解を通して自己の考えを深めたり、言語文化への関心を高めたりする。 ・ 要約や感想の発表をすることで古典に親しむ態度を育てる。 〔家庭学習〕 ・ 学習前に大意を捉えるために音読をする。学習後は場面や心情に即した音読をする。 ・ 既習単語や脚注に留意して現代語訳をする。不明な箇所は古語辞典や古典文法書や漢文句法書で確認する。翌授業で再度確認する。 〔補習・その他〕 ・ 補習では、文語文法や漢文の基本句形の学習、また古文・漢文の読解等を行う。 ・ 基本的事項の確認と並行して、演習問題を行い受験に対応できる理解力読解力を養う。 ・ 読書は国語の力の基礎となる。図書館を利用して多くの文章に触れる。		
学習計画 と ね ら い	<1学期末考査まで> 古 説話『十訓抄』 博雅の三位と鬼の笛 随筆『方丈記』 ゆく川の流れ 養和の飢饉 漢 故事・逸話 「推敲」「塞翁馬」 <2学期末考査まで> 古 物語『伊勢物語』 通い路の関守 小野の雪 随筆『枕草子』 雪のいと高う降りたるを 九月ばかり 漢 史伝『十八史略』 藺相如・背水の陣 <学年末考査まで> 古 物語『平家物語』 忠度の都落ち・先帝身投げ 漢 漢詩 竹里館・望廬山瀑布・黄鶴楼 寓話『莊子』夢為胡蝶	○説話や随筆のおもしろさを味わい、芸術観や無常観などに関する理解を深める。 ○対句を多用した和漢混交文のリズムの美しさや比喩の巧みさを味わう。 ○漢文の構造や返読・再読文字、助字等に慣れる。 ○故事成語の意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。 ○歌物語や随筆に触れ、当時のものの考え方や価値観を学ぶ。 ○史伝を読み、展開に即して出来事や人物の特徴を読み取る。 ○やや長い漢文に慣れるとともに、歴史や歴史上の人物についての興味を養う。 ○登場人物の関係とその心情を理解し、その時代の人々の生きざまを学ぶ。 ○漢詩の形式や技法を学び、そこに凝縮された人生観や世界観を鑑賞する。 ○繰り返し読むことを通して、思想を深く読み取り、自己の考え方を豊かにする。	
評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、読解に必要な語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・ 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。	・ 古典文学に興味をもち、多様な価値観を読み取ろうとしている。 ・ 現代の文化とのつながりを理解しようとしている。
評価方法	○評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」から総合的な評価を行う。 ○定期考査は、知識・理解を偏重することなく、3つの観点が評価できるよう作問を工夫する。 ○定期考査だけでなく、年間を通じて発表、作文、課題など、生徒の主体的な活動も重視する。またそれらの表現領域においては、テーマの設定から発表にいたる学習過程の全体を評価の対象とする。 以上を総合的に判断して評価する。		